

令和6年度 集落支援員活動報告

保原地域担当 東城 一弘

保原地域の活性化（2年目）

成果はあったのか・・・？

令和6年度【活動実績】

- ①紅屋峠千本桜まつり実行委員会を充実 → （過去最高の入場者）
- ②令和5年度の大田地区座談会から「大田塾」に進化
- ③K町内会（解散の危機）を復活支援
- ④富成地区町内会長を訪問、意見交換（7月29日～8月30日）
- ⑤「保原地域自治組織連絡協議会」を設立

①紅屋峠千本桜まつり実行委員会を充実

○柱沢地域まちづくり振興会が中心 → 実行委員会を立上げ（5年度）



各団体に役割分担

○構成団体：柱沢地域まちづくり振興会・紅屋峠千本桜の会・
柱沢財産区・柱沢小学校・消防団保原支団第3分団・
交通安全協会柱沢分会・防犯協会柱沢支部

○期間：令和6年3月23日～4月14日

○来場：34,000人（過去最高）



②大田地区座談会から「大田塾」に進化

保原サマーフェスティバルにおいて「かき氷店」

・ ・ 儲かりました！



機器：大田地区自治振興会所有



上保原地域づくり振興会

③K町内会（解散の危機）を復活支援（34世帯）

令和6年度会長が決まらない（R6.3月）



役員会を開くも進まない（役員会に来ると会長にされる等）



前会長・現副会長・監査と協議すること（10回）



役員会（2回）において、町内会の役割・役員の役割・規約改正を説明



7/23臨時総会（次期会長まで決定）



新会長より感謝の連絡（退会した会員も復活（2世帯）

④富成地区町内会長訪問（18町内会）意見交換会

○現 況（1町内会：9世帯～36世帯）

- 会長（庶務会計兼務）1人で行っている町内会が大半・・・負担が大きい。
- 戸数が少ないわりに班数が多い・・・（集落が分散）
- 会長職が1年交代・・・（町内会から団体へ推薦）引継ぎがうまくいかない。
- 会長をやりたくない、やる人がいない・・・順番で決まっている。
- 富成地域まちづくり振興会の活動内容・・・把握していない。
- イベントの際、高齢者が地区交流館まで行く足がない。
- コロナウイルス感染症により、3～4年間集まる機会も無くなっていた。
- ライフラインの整備が遅れている。（水道の未整備、道路の未舗装）
- 小学校の閉校、JA富成支店の閉店、活気は薄れ不便になった。
- 高齢による免許返納・・・ますます不便な地域になる。
- 空き家が多くなってきた（適切に管理されない）

⑤保原地域自治組織連絡協議会を設立

○保原地域（上保原・富成・柱沢・大田・保原）・・・情報共有
令和5年度から情報交換会を実施



○目的：各地区自治組織の情報交換及び運営研修等を行い、
地域振興の円滑な推進に資することを目的として設立。



○令和6年12月
会 長「上保原地域づくり振興会長」
副会長「富成地域まちづくり振興会長」に決定

（番外編 1）東城が名人・・・？

- ・保原小3学年総合的な学習の時間・・・テーマ「野球」
- ・「素晴らしい技を持っていきいきと生活する名人とふれ合うこと」を通して、地域の人とかかわることの楽しさに気づく。



(番外編2)

- ・ 紅屋峠千本桜で・・・スズメバチの巣発見 → 東城すぐ逃げる)
市民の生命、財産を守る・・・この写真は業者です。



○最後に

市は、将来の「人口減少・高齢化」に向けた地域活性化策として、小学校区単位に地域自治組織（各団体を網羅）を立ち上げた。



しかし、立ち上げして安心（地域任せだったのではないか）



更に、定年延長による役員のなり手不足（町内会、各団体等）



そこに、コロナウィルス蔓延による活動の停滞（3～4年）

※今こそ、市職員がもっと地域に入っていく時ではないか。

（提案）地域サポーター職員制度導入

- ▶ 市職員の地域との係わりが薄くなってきた。
 - ▶ 防災上、地理がわからないのは致命傷。
 - ▶ 地域と交流することによる新たな出会い。
 - ▶ コミュニケーション能力を高める。
 - ▶ 自宅と職場の往復で年を取ってしまう。
-
- ▶ 詳細は・・・現在検討中

伊達市協働のまちづくり指針（抜粋）

「風をおこす」
「種をまく」
「畑をつくり育てる」
「実り」

ようやく時代が追いついてきた。

ご清聴ありがとうございました。